

第5章

文化財の保存・活用に関する将来像・課題・方針

1 節 将来像と基本方針

鹿角地域は、四方を山並みに囲まれ、石川啄木はその様子を「青垣山を繞せる天さかる鹿角の国」と詠んだ。第3章で示したように「青垣山をめぐる鹿角の里」は鹿角地域の歴史文化の特性である。それを彩る特性が「山島 鹿角」、「いにしへの里 鹿角」、「境のマチ 鹿角」、「黄金ふく青垣山」、「鹿角に息づく信仰と風流」である。この多様で豊かな歴史文化や文化財は、青垣山の恵みとともに歩んできた先人によって育まれてきた。この歴史文化や文化財は、地域ワーキングの出席者から「自分(たち)にとって、重要なものや欠くことができないもの」であると挙げられたことから、地域コミュニティの基層となり、郷土への愛着を生み、精神的な拠り所として大切にしてきたといえる。

ところが、住民の生活様式や価値観が変化していく現代において、文化財は意識的に継承しなければ失われる状況である。また、行政が実施する保存・活用事業は財政的にも人的にも限界があり、未指定文化財まで対策がとられていないのが現状である。文化財を後世に継承するために、地域社会をはじめ、文化財所有者を含む住民・学術専門機関などによる主体的な取り組みが必要となり、行政がその機運を醸成し、継続する施策を行う必要がある。

本地域計画は地域全体が一丸となって、鹿角地域の歴史文化や文化財の価値を見出すことで地域に愛着を生み、活力のあるまちを目指す。そのため、鹿角市は第7次鹿角市総合計画で将来都市像を「ふるさとを誇り未来を拓くまち」、小坂町は第6次小坂町総合計画で将来都市像を「ひとと自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち」を踏まえ、鹿角地域の将来像と基本方針を以下のとおり設定する。

将来像 「青垣山の恵みに育まれた歴史文化に出会えるまち鹿角」

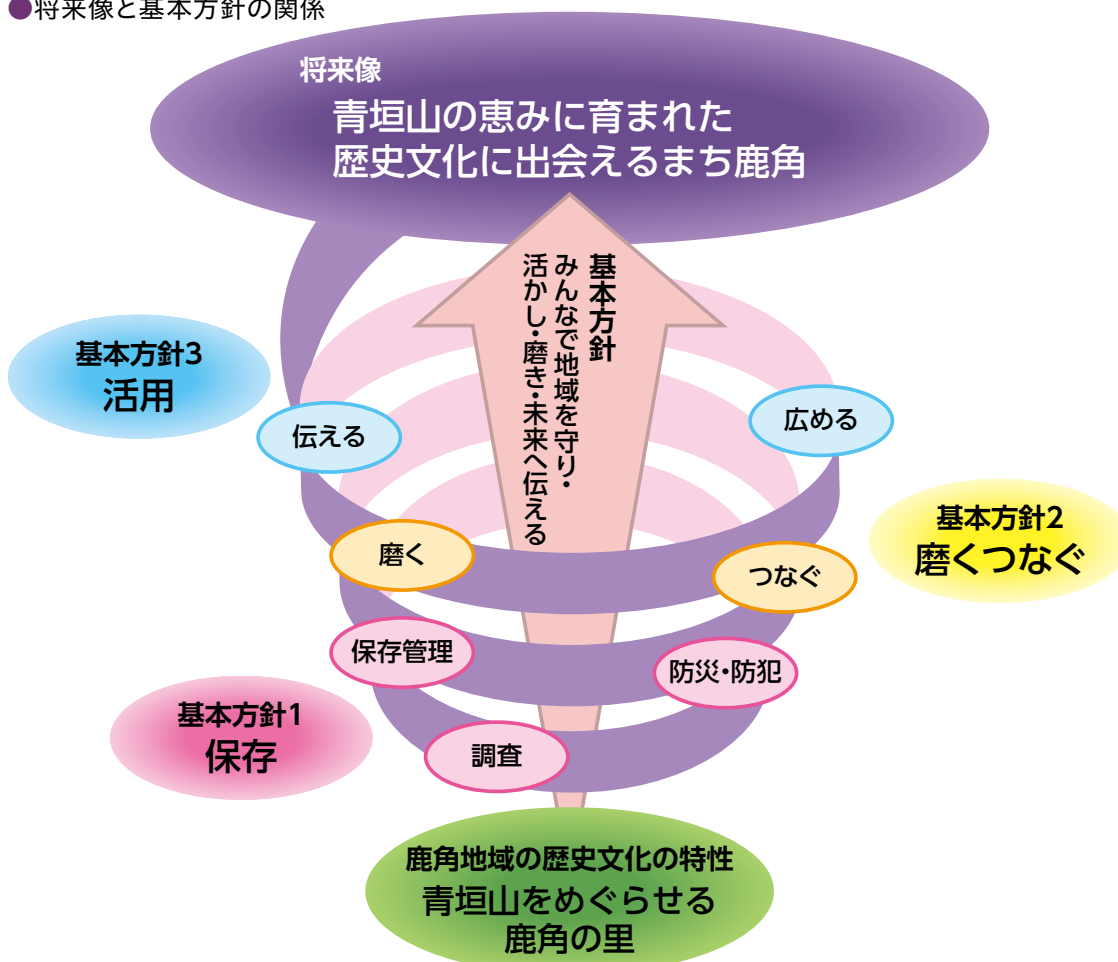
基本方針 「みんなで地域を守り・活かし・磨き・未来へ伝える」

2節 文化財の保存・活用に関する課題・方針

鹿角地域における文化財の保存・活用の将来像を達成するために、以下の基本方針に沿って課題を整理し、課題解決のための方針を設定した。なお、防災・防犯に関する事項は第8章に詳細を記載する。

基本方針1 保存	鹿角地域の歴史文化を調査し、歴史文化の価値を知る。さらに、文化財の現状を確認し適切に保存管理することにより個性あふれる鹿角地域を後世に引継ぐ。 →方針【調査】、【保存管理】、【防災・防犯】
基本方針2 磨くつなぐ	調査記録と成果から歴史文化や文化財の価値を高める。また、文化財の周辺環境を整備し、文化財がもつ魅力を引き上げる。文化財を後世に継承するために、文化財所有者を含む住民だけではなくさまざまな主体との協働による持続可能な体制を整える。 →方針【磨く】、【つなぐ】
基本方針3 活用	鹿角地域の歴史文化は、人々の生活や社会に彩りを与える貴重な財産となっている。これらを形成する文化財の保存を適切に図りながら、文化財や歴史文化の魅力を発信する。文化財を核としたコミュニティやつながりを創出し、歴史文化に触れる機会を広げる。 →方針【伝える】、【広める】

●将来像と基本方針の関係



序 章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

1. 基本方針1 保存

鹿角地域の歴史文化を調査し、歴史文化の価値を知る。さらに、文化財の現状を確認し適切に保存管理することにより個性あふれる鹿角地域を後世に引継ぐ。

(1)調査に関する現状・課題・方針

①現状

文化財の把握調査状況は、第4章1節で記載したとおりである。さまざまな調査記録と成果が蓄積している。そのなかには報告書などにまとめられていない調査記録もある。また調査記録の一覧データはあるものの、文化財とその調査記録内容を検索できるデータベースはない。

自治体史の編さんなどにより把握調査が実施されたが、地区や類型に偏りがある。一方で調査が実施されてから30年以上が経過し、未指定文化財は特に現状調査を進める必要がある。詳細調査は一部に限られ、詳細調査が実施されないまま滅失の危機を迎えている文化財もある。

調査の種類

把握調査…歴史文化を伝える文化財がどこにあるか調べる調査

詳細調査…文化財としての価値づけをするための学術的調査

現状調査…現在の状況(あるかないか・保存状態)を調べる調査

②課題

ア. 文化財の調査が必要

把握調査は実施されたが、建造物などの有形文化財や記念物などの類型の把握ができていない。小坂地区は把握調査が進んでいない。また、把握調査実施から年数が経ち、現状を確認できていない文化財があり滅失のおそれもある。特に個人所有の建造物や文書類(書跡・典籍・古文書・歴史資料)、無形の民俗文化財はき損や滅失の前に調査が必要である。

イ. 調査成果の整理が不十分

調査記録が蓄積されているが、文化財とその調査記録を紐づけたデータベースがなく、文化財の情報の検索に時間がかかる。今後の調査のために、所在地などの必要な情報を反映させた文化財調査リストが必要である。

③方針

ア. 調査の推進

把握調査は、調査が進んでいない小坂地区を優先的に、建造物などの有形文化財や記念物などの把握調査を計画的に実施する。把握した文化財は定期的に現状調査を実施し、保存状態などを確認することで文化財の適切な保存管理へつなげる。き損や滅失などの緊急性も考慮し、記録作成調査を実施する。学術専門機関と連携し詳細調査の必要な文化財を検討し、詳細調査を実施する。

イ. 調査成果の整理の推進

未指定文化財を含めた調査の結果を分類・整理し、所在地などを反映させた文化財調査リストを作成し、検索できる形式とする。

(2) 保存管理に関する現状・課題・方針

① 現状

鹿角市と小坂町は、所蔵資料や指定等文化財を中心に保存管理を行ってきた。指定等文化財のうち国指定の建造物や記念物の一部は個別に保存活用計画を作成している。また、鹿角市と小坂町は指定された無形の民俗文化財に対し補助制度を設け、保存に係る取組みに対して補助金を交付し支援を行っている。また、鹿角市は継承者の発掘・育成の場となる公開の機会として鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催や、指定された無形の民俗文化財の保存団体同士が交流し情報交換をする機会を設け、各団体の活性化や後継者育成などの継承活動を支援している。住民の集落単位の活動の中で継承されて守られてきた未指定文化財は、自治会や高齢者の活動支援として間接的な支援はあるが、文化財への直接的な財政支援はない。

鹿角市と小坂町は、所蔵する文化財を一括で保存管理する施設はなく、複数の収蔵施設に分散して保存管理している。また所蔵する資料の台帳作成に取り組んでいる。所蔵する資料の台帳は様式が統一されておらず、関連情報と紐付けしたデータベースもない。

古文書などの文書類は劣化や災害などを防ぎ適切に保存管理することだけでなく、地域の歴史文化への認識を深めるために解説することが必要である。鹿角市は学術専門機関やボランティアと連携し、平成30年度から鹿角市史編さんや寄贈などで収集した史料の目録作成などの整理作業を継続している。小坂町は、史料が寄贈された際にボランティアの協力で整理している。

花輪地区は百人一首かるたが盛んであり、百人一首かるたのパネルが各所に設置される。鹿角市、学校、市民センターなどが教室や大会を開催し、後継者の確保・育成に取り組んでいる。

民謡や口承文芸などの保存団体が後継者の確保・育成に取り組んでいる。

天然記念物である声良鶏の保存団体が競技会を開催するほか、飼育や種の保存に取り組んでいる。

② 課題

ア. 情報管理が不十分

文化財ごとの保存管理データが統一されていない。さらに把握した文化財の定期的な現状調査、防災・防犯に関する情報、整備や保存・活用の記録などをまとめたリストがないため作成する必要がある。そのため文化財の情報の検索に時間を要する。鹿角市と小坂町が所蔵・保管する資料の台帳も類型や収蔵施設により様式が異なる。

イ. 保存継承の支援が不十分

指定・未指定に関わらず計画的・継続的に、適切な保存措置を講ずる必要がある。文化財の維持に必要な原材料や修理に必要な物資が入手困難となっているほか、修理業者の確保も難しい文化財がある。適切な保存のための支援として、き損や滅失に備えた文化財の記録作成も必要である。また、文化財を継承する担い手の不足が深刻化している。

小坂町が策定した個別の文化財の保存活用計画は、作成から年数が経過したものや防災について不足している計画があり、改訂が必要である。

寄贈・寄託が増えているが、文化財収蔵施設の収容量は限界に近く、また施設設備が整っておらず文化財の劣化が懸念される施設がある。

③ 方針

ア. 情報管理の推進

文化財調査リストや所蔵文化財台帳、防災・防犯に関する情報、報告書などの文化財に関する情報を分類・整理する。それら文化財ごとの基礎データをまとめ、検索可能な文化財リストを作成する。文化財リストは関連情報をデジタル化し紐付けたデータベースとして文化財の計画的な現状確認や適切な保存管理の基礎データとして用いるため、定期的に更新する。

収蔵資料台帳は整備を継続して実施し、様式の統一や検索可能なリスト化を進め、収蔵資料の適切な管理を図る。併せて収蔵資料の記録作成・デジタル化も行い、文化財リストに反映させる。過去に採録されたビデオテープやカセットテープなどの記録資料などのデジタル化を優先して行う。

イ. 保存継承の支援の充実

文化財を後世に伝えるため、指定・未指定に関わらず現状調査結果に基づいて適切な保護措置を検討する。修理などを実施する際には、必要に応じて適切な手法や対応できる業者などについて学術専門機関の助言・指導を受け、適切な保存管理に努める。また後継者や担い手の育成の継承活動をはじめとする文化財の保存・活用への支援の充実を図る。適切な保存の支援として経年劣化によるき損や滅失を考慮し、調査に基づき映像記録(資料)や報告書の作成などの文化財の記録作成をする。文化財の所有者や保存団体による保存管理だけでなく、住民や関係団体などを含めた地域総がかりでの保存管理に取り組む。

小坂町は策定した個別の文化財の保存活用計画は、改訂及び作成を進め、その運用を行う。

資料の収蔵場所の整備・拡充を進める。文化財を収蔵する各施設の現状に即した設備の整備・更新を検討し、収蔵資料の適切な保存管理に努める。

※防災・防犯

災害や盗難・汚損などから貴重な文化財を保護するため、文化財の防災・防犯の取組みを推進する必要がある。防災・防犯に関する現状・課題・方針については第8章に記載する。

2. 基本方針2 磨くつなぐ

調査記録と成果から歴史文化や文化財の価値を高める。また、文化財の周辺環境を整備し、文化財がもつ魅力を引き上げる。文化財を後世に継承するために、文化財所有者を含む住民だけではなくさまざまな主体との協働による持続可能な体制を整る。

(1) 磨くに関する現状・課題・方針

①現状

鹿角市史などの自治体史をはじめとした調査結果の報告書や『鹿角市の文化財』など文化財に関する情報は書籍で刊行しているが、反映されていない指定等文化財がある。鹿角市や小坂町が発刊した書籍には、在庫がないものがある。

未指定文化財は、住民の集落単位の活動の中で継承されるが、文化財として認識されていないものも多い。劣化などの懸念がある有形文化財や遺跡、動物・植物・地質鉱物などは、目にすることが難しくその価値が伝わっていない。

秋田県・鹿角市・小坂町のほか住民・文化財保護団体などが各所に案内板などを設置している。

文化財を公開する博物館等展示施設の設備が老朽化している。登録博物館である小坂町立総合博物館郷土館は、開館から40年以上経過し、より顕著である。

地域の特徴であるコミセ(コモセ)を改修するなど景観の整備がされている地区をはじめ、「守りたい秋田の里地里山50」に認定された農村景観も鹿角地域には複数所在するなど、魅力的な眺望景観が住民などにより守られている。

②課題

ア. 文化財の価値づけが不十分

最新の指定等文化財が文化財の情報をまとめた冊子に反映されていない。文化財の研究が進んでおらず、未指定文化財などは適切に価値づけられていない。目にすることが難しい文化財や在庫が無い文化財に関する文献などデジタル化の対応が必要であるが、文化財をデジタル化し公開するための方針がない。複数の文化財を一定のまとまりとして価値づける必要がある。

イ. 発信拠点の整備が不十分

発信拠点である博物館等展示施設や観光施設は、設備の老朽化が進んでおり、案内板も老朽化や未設置があり、整備が必要である。また展示可能な資料が限られるなど文化財を魅せる環境が整っていない。多言語化も一部にとどまっており、整備が必要である。

また、農村景観やコモセ(コモセ)の町並みなどの眺望景観が資源として十分に活かされていない。登録博物館である小坂町立総合博物館郷土館は、老朽化した設備を更新し、地域の文化財発信拠点施設として再登録が必要である。

③方針

ア. 文化財の適切な価値づけ

最新の指定等文化財が反映された文化財情報をまとめた冊子を刊行する。未指定文化財は調査結果と成果からその価値を明らかにし、価値を伝える施策を検討する。目にすることが難しい文化財や文化財に関する文献などをデジタル化し、保存・活用を図る。文化財をデジタル化し公開するための方針を策定し、コンテンツの二次利用に関する方針を検討する。関連性のある複数の文化財をつなぐ取組みを展開し、文化財や歴史文化への理解を深め、文化財の保存・活用の活性化を図る。

イ. 発信拠点の整備の充実

展示や案内板などによるガイダンスは、文化財への理解を深められるよう内容の充実や多言語化だけでなく、デジタルコンテンツにも対応した設備を検討し、文化財やその周辺環境の付加価値の向上を図る。また、空調や展示ケースなどの展示施設の設備や屋外にある文化財の周辺環境など、公開・活用による影響から文化財を守り活用する環境を整備する。地域を象徴する文化的景観を維持し、魅力を伝えるための施策を検討する。登録博物館の再登録に必要な設備整備更新を進める。

(2) つなぐに関する現状・課題・方針

①現状

鹿角市や国指定の無形の民俗文化財保存団体は担い手の育成を進めている。

鹿角市と小坂町は庁内の観光部局などが文化財の保存・活用の取組みを行っており、観光施設となっている文化財を中心にガイド団体が活動している。

大湯環状列石など一部の文化財は、住民・学術専門機関などと連携を図っている。

鹿角市と小坂町は学芸員などの専門的な人材が不足し、分野に偏りがある。



大湯環状列石ガイドの
レベルアップ講座

②課題

ア. 人材育成が必要

文化財を継承する担い手や保存に欠かせない専門的な人材が不足しているため、外部からの人材の確保や専門的な知識の習得など、間口を広げる活動が必要である。また、文化財を広めるガイドや語り部の確保も難しくなっており、外部からの人材確保が必要である。

イ. 仕組みづくりが必要

文化財の保存・活用を行うために保存団体を含む住民、行政、学術専門機関など多様な主体が連携し取組む体制がない。また、庁内間の連携の強化や文化財担当職員の不足を補い、文化財行政の充実を図るため学術専門機関との連携が必要である。

③方針

ア. 人材育成の強化

文化財を継承する担い手や専門的な人材の育成の取組みを強化する。また、関係機関と連携し、地域の歴史文化や文化財を周知する人材の育成を行う。

イ. 仕組みづくりの構築

文化財を核とした多様な主体がつながる仕組みづくりを推進し、文化財の保存を図る。庁内の連携を強化することにより、保存・活用の取組みや支援の充実を図る。また、文化財担当職員の充実配置やスキルアップのため学術専門機関との連携を強化する。

3. 基本方針3 活用

鹿角地域の歴史文化は、人々の生活や社会に彩りを与える貴重な財産となっている。これらを形成する文化財の保存を適切に図りながら、文化財や歴史文化の魅力を発信する。文化財を核としたコミュニティやつながりを創出し、歴史文化に触れる機会を広げる。

(1) 伝えるに関する現状・課題・方針

①現状

指定等文化財を中心に情報発信を行っている。指定等文化財や鹿角市と小坂町の施設に関する情報はパンフレットの作成やホームページなどで発信している。また、出版社などからの要望に対して可能な範囲で情報発信を行っており、それぞれの文化財や施設の価値の発信に努めている。

第1章2節に記載したとおり、鹿角地域には展示施設が複数所在し、特化した内容の展示をしている。

②課題

ア. 情報発信が不十分

文化財の情報の種類や量に偏りがあり、歴史文化や文化財を「知らない」人の興味を引く情報発信や若年層にもわかりやすい文化財情報、複数の文化財をつなぐ情報発信が必要である。歴史文化の情報を得る機会がイベントや発刊物、SNSに限られている。タイムリーな情報発信が十分ではない。

③方針

ア. 情報発信の充実

文化財の価値や魅力に関する情報をさまざまな媒体で行い、地域内外やあらゆる世代へ届く発信をする。

拠点施設での展示やイベントなど文化財に直接触れる機会の充実だけでなく、拠点施設での講座やデジタルアーカイブ、オンラインツアーなど文化財をより深く知る機会を充実させる。開催時期や季節に応じた情報などの文化財の様子がわかる情報発信を図る。

(2) 広めるに関する現状・課題・方針

①現状

学校で、まちなか探検や史跡ガイド、踊りの継承など郷土学習が行われている。学校給食で、地場産物や郷土料理を使用した「たらふくかづの」の日(鹿角市・小坂町)やヒメマス給食(小坂町)などを継続的に実施している。

生涯学習は、市民センター事業(鹿角市)や公民館事業(小坂町)、青少年育成鹿角市民会議(鹿角市)、文化財展示施設などで体験や講座を実施している。

鹿角市と小坂町は国指定文化財を中心に公開活用の取組みを行う。公開する文化財には住民を中心としたガイド団体が設立され、活動を通して文化財の活用や保存に対する意識啓発の一翼を担っている。

鹿角市はユネスコ無形文化遺産と世界文化遺産をつなぐ取組みを行う。無形の民俗文化財や展示施設は学校教育や生涯学習の場で活用している。

②課題

ア. 文化財に触れる機会の不足

あらゆる世代が歴史文化に触れ、その価値や魅力を知る機会や取組みが不十分である。

イ. 文化財を活かす取組みが不十分

文化財を活用した取組みが観光以外に活かされておらず、地域の活性化への取組みが不十分である。

③方針

ア. 文化財に触れる機会の充実

あらゆる世代が文化財や歴史文化を体感し学ぶ機会の充実を図る。学校教育や市民センター・公民館事業など多様な主体で取組みを実施することで、多様な機会を創出し文化財の普及啓発を図る。

イ. 文化財を活かす取組みの推進

文化財や歴史文化を観光や健康、福祉分野に広げ、文化財の調査・研究などで解明された多様な情報も用いた活用などにより地域の活性化を目指す。